



2023年2月1日発行  
 公益財団法人とちぎYMCA  
 〒320-0411  
 宇都宮市松原2-7-42  
 Tel 028-624-2546  
 Fax 028-624-2489  
 www.tochigiyymca.org  
 発行人 / 塩澤 達俊  
 編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

# YMCA News

2



## 「怒る人と共に怒る」ピンクシャツデー

今年も2月の最終水曜日、ピンクシャツデーがやってきますね。ピンクのシャツを着て学校に来たことでいじめられた少年の話聞き、怒った上級生たちが学校中に呼びかけ、みんなでピンクのシャツを着ていじめに対抗した、というカナダのエピソードから始まった取り組みです。「男がピンクを着るなんておかしい」という偏見こそが「おかしい」ことは、今の時代を生きる私たちにとって、当たり前のもので容易に共有できる価値観だと思います。

では、例えば、「ハーフは英語がペラペラ」という偏見はどうでしょうか。

昨年、あるお笑いコンビが「間抜けなハーフ」というYouTube動画を公開しました。金髪のカツラをかぶり、マジックペンで鼻を高く見せたタレントが、「ハーフなのに」英語を話せないことを笑われるという「ネタ」です。この動画によって笑いものにされたと感じ、多くの外国人にルーツをもつ人たちが傷つき、怒りを表明しました。動画はすぐにこっそりと削除されましたが、未だ当のお笑いコンビや所属事務所から謝罪はありません。

外国にルーツをもつ人々（両親のどちらかが外国人、両親共に外国人、国籍は日本だけれど外国で生まれ育った等、多様な背景の方々）は、この動画に限らず、日常的に人種差別的言動を受けながら生活しています。それだけでなく、たとえ明らかな差別発言とは言えなくても、偏見に基づいた日々の小さな言動によっても、少しずつ心に傷を受け続けています。こうした言動のことを「マイクロアグレッション」（無意識下の身近な差別的言動）と言います。

「ハーフいいなあ! 憧れる」「ハーフだから足速いんですよ」「日本語じょうずですね」「英語しゃべってみて」・・・皆さんも、つい口走ってしまったことはないでしょうか。しかし、言われた側はというと、一方的なイメージを押し付けられ、自分という個人の本質に焦点をあててもらえない経験を繰り返すことで、存在を無視されたように感じ、自分自身でさえも自己を肯定しづらくなることもあるといいます。ストレスが積み重なり、人と話すことが怖くなったり、心身に支障をきたすケースもあります。

かく言う私も、過去を振り返ってみれば、残念ながら無意識にマイクロアグレッションをしてしまった経験が思い起こされます。これからはそういうことはしないように気をつけたいと思

ます。しかし、ただ気をつけるだけで良いのでしょうか？

ある時、私の身近な人が、初対面で名刺交換したばかりの人に「このお名前から察するに、もしかしてハーフですか？」と尋ねられる典型的なマイクロアグレッションを受けていました。ご本人は相手の方に対して「いきなり初対面でそんなことを聞くのは、失礼ではないですか？」と抗議していました。しかし、その場にいた私は、何も言うことができませんでした。ただの傍観者になってしまったのです。

そんな時、どうしたら良いのでしょうか。ある外国にルーツをもつ方がこのようにおっしゃっていました。「私たちがマイクロアグレッションを受けて怒りを表現した時、いっしょに怒ってくれると嬉しい。」そうか、なるほどと思いました。あの、ピンクシャツを皆で着ていこうと呼びかけた上級生のように、共に怒り、共にいじめや差別に立ち向かうことが必要なのだ、とわかりました。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマの信徒への手紙 12章 15節）という聖句があります。ここには明言されていませんが、「怒る人と共に怒る」こともまた、私たちが求められていることなのでしょう。

いじめや差別をなくすためには、ただ「自分たちがしないように気をつける」だけでは不十分です。その場面に出くわした時、いじめや差別をされた人と「共に怒る」ことができるか。2月の最終水曜日、ピンクのシャツに袖を通し、そんなことをみんなで考える日にできたらと思います。



NPO 法人メタノイア 代表理事  
 公益財団法人日本YMCA 同盟 評議員 / 常議員  
 山田 拓路

↑ NPO 法人メタノイアについてはこちらから。

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

### 2022年度とちぎYMCA年間聖句

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。  
 （ピリピ人への手紙 4章6節）



### 認定こども園 さくらんぼ幼稚園

## 「りす組(1歳児クラス)の1年間」



4月、初めての登園日は保護者の皆さまも子どもたちも、そして私たちもドキドキした1日だったと思います。さみしくて泣いてしまった春。今ではそのことを忘れてしまう程、嬉しそうに自分から部屋に入っていき楽しく過ごしています!幼稚園の生活にも慣れてきた夏。散歩カートでたくさんお散歩に出掛けたり、プールで冷たい水の感

触を楽しんだりしました。お友だちや周りのことに興味が出てきた秋。歩くことが上手になり、お友だちと手をつないで散歩に行くことが大好きになりました。公園で虫を探したり、初めての運動会に参加したりもしました!お話が少しずつ上手になり、自分でやりたい!ということが増えていった冬。自分でできることが増え、改め



て子どもたちの成長を感じました。もうすぐまた春が来ます。1年間で大きく成長した子どもたち。進級するまで残り僅かとなりましたが、1日1日を大切に楽しい毎日を送っていきたいと思います。

### ようとう保育園

## 「2022年度幼児組生活発表会」

2022年12月17日(土)ようとう保育園ひろばにて幼児組生活発表会を開催いたしました。コロナ渦で行われる発表会は今回が3回目となります。新型コロナウイルス感染症の現状を踏まえ、保護者の皆さまのアンケートを参考に改善策を見出しながら、無事に本番を迎えることができました。

“みんなの笑顔ここに集まれ!!~勇気 100%~”のスローガンを掲げて挑んだクラスごとの発表会。「てぶくろ」「ももたろう」「シンデレラ」とウクライナ民話から日本昔話、世界の童話といったクラスカラーが出ていた劇あそびでは、緊張のあまり台詞が出てこない子には、そっと耳打ちしてあげる微笑ましい姿も見られ、助け合いながら演じる姿に成長を感じました。それに加え、ダンス、運動あそび、英語あそ



びを年齢に応じた演目を加え披露しました。運動あそびでは、練習で跳び箱3段が跳べなかった子どもも成功!!諦めずにチャレンジできた喜びが最高の笑顔となりました。ふじ、さくら組が取り組んでいる英語あそびでは、可愛らしい振り付きで堂々と歌い上げ、思わず見ている方もリズムにのってしまいうほどでした。また、3クラス共通で歌った曲のなかでも『勇気 100%♪』は子どもたちのお気に入り。「もうがんばるしかないさ~」と真剣な表情で歌っていて私たちが勇気をもらいました。

発表会を終えると「楽しかったあ」と満面の笑みの子どもたち。目の前の観客にドキドキしながらも、のびのびと発表している姿は感動を与えてくれました。



保護者の皆さまの温かい眼差しの中、全員が自分の力を発揮することができ、達成感、満足感を味わうことができました。みんなの笑顔があふれた、ようとう保育園ならではのアットホームな雰囲気の生活発表会となりました。

生活発表会担当 鈴木 真実

### 宇都宮市親と子どもの居場所 めいめい

## 「今年もよろしくお祈りします。」



あけましておめでとうございます。本年も親と子どもの居場所めいめいをよろしくお祈りします。

めいめいでは12月にクリスマスパーティー、1月にお餅つきをしました。

クリスマスパーティーでは宝探し形式で子どもたちがプレゼントを探し、プレゼントを見つけると嬉しそうにお友達や保護者、スタッフに声をかけていました。また、子どもたちとカップケーキにデコレーションをそれぞれで行い一生懸命考えながら自分好みのケーキを作っていました。自分で作ることが

楽しかったようで「今度はいつ作ったりするの」など声が聞こえてきました。

1月のおもちつきでは初めておもちつきを見る子がほとんどでもち米をついているところを見せると「おもちってお米からできてるの?」「このご飯はいつも食べてるご飯?」などたくさんの質問が聞かれました。餅つき機の前から離れずじっと粒がなくなっていく様子を見て「おもちになってきた」と嬉しそうに話していました。子どもたちにとって貴重な初めてのもちつき体験になりました。今後子どもたちにたくさんの経験や体験をできるように企画していきたいと思ひます。

今後親と子どもの居場所めいめいを利用してくださる方、ボランティアの方々など新しい出会いが今年もできることを願っています。

### 子どもの家だより~

### 戸祭小子どもの家(とちのみ会)

## 「冬休みのつどい」



とちのみ会では、毎年新年を地域の方々と一緒に祝い、交流を持っています。コロナ禍の前は、「七草のつどい」を開催し、地域の方々を作ってくれた七草粥をごちそうになっていました。今年は1月6日(金)に「冬休みのつどい(主催:戸祭地区まちづくり協議会 共催:戸祭地区自治会連合会・戸祭小子どもの家)」を開催し、けん玉やおはなし会、折り紙工作を行いました。昔ばなしを聞いたり、ねじり箱などの折り紙を折ったり、けん玉

検定に挑戦したりと大変盛り上がりしました。これまで、子どもの家は戸祭コミュニティセンター内で開設していましたが、地域の方々とのふれあいが多く、今年度から新しい独立棟の運用が始まって、秋休みには防火訓練と一緒にを行いました。今年も学校や地域の方々のおかげで安全に充実した生活を送れるよう心がけていきたいと思ひます。

主任支援員 半田 茂美



### 宇都宮市青少年活動センター トライ東

## 「新年のご挨拶」

トライ東には、コースのアルバイトスタッフがあり、日々の施設運営やイベント企画と一緒に取り組んでいます。さて、今年度は大学生生活を終え、新しい道へと歩みを進めるコースが2名おります。今回はそのうちのひとり「真関秀明さん」(ませっきーリーダー)にインタビューを致しました。

Q 印象に残っているイベントはなんですか?

A、ハロウィンイベントです。

「回を重ねる毎に楽しくなりました。私も企画の提案やそれを実現させるために工夫をしてイベントに携わってきたので、様々な年代の方が楽しく過ごされる姿を見ることができ、とても嬉しく思いました。」

Q アルバイト経験を通して身につけたこと、また今後の社会生活に役立てたいことはなんですか?

A、「聞く力」を養えたと思ひます。

「聞く」ということを意識することで、次第に人との交流が増え、何かしら困りごとだったり、イベントなどでご協力頂けたりと、利用者の皆さまからお声がけ頂けたことが多くあると感じています。今後、社会に出た時にも自然と他愛ない会話ができる関係をたくさんの方と築きたいと思ひています。」



Q 最後に今まで真関さんが関わった、トライ東利用者の皆さま、とちぎYMCAの皆さまへ一言お願いします。

A、「とちぎYMCA」での様々な活動の経験のおかげで自身の成長と将来に対して深く考えることが出来ました。とても感謝しています。そして、利用者の皆さまからは沢山の笑顔と励ましの言葉を頂き、トライ東でのアルバイトも楽しく行うことが出来ました。とちぎを離れてしまひますが、帰ってきた際にはまたよろしくお祈りします。」

以上がインタビューの内容です。

真関さんは、このアルバイトを経験し、話を聞く力や周りへの配慮、考えを汲み取り行動する力が身についたようです。

是非、トライ東でのアルバイトの経験をこれからの社会生活に役立てていただければと思ひます。

### 特別養護老人ホーム マイホームきよはら

## 「ゆく年くる年」



新年あけましておめでとうございます。今年もご愛顧のほどよろしくお祈りいたします。

年末のマイホームきよはらでは新年に向けて餅つきを行いました。寒空の下で行いましたので入居者の皆様は暖かい飲み物を飲みつつ職員がおもちをつく様子を楽しそうにみておられました。お元気な方には餅つきを手伝っていただき、杵が少し重い様子でしたが楽しい様子でした。

また正月飾りとして生け花を行いました。様々な花の種類からご自分の好きな花を選んでいただき、ご自身でできる方はご自分で好きなように生け花をしていただき、少し難

しい方は職員がお手伝いしながら思い思いの生け花を作られました。ご自分でつくられた生け花と写真を撮る際にはとても良い笑顔が見られました。今回生け花に参加されなかったご入居者様もお散歩する際にきれいな生け花を鑑賞されておられました。

大みそかにはテレビの映像をスクリーンに投影し歌番組を大きな画面で見な



がら軽食やお菓子を召し上がったり、ジュースやお酒を飲んで楽しまれておりました。

お正月には朝は普段以上にゆっくりと起きていただき、おせち料理やおもち、お酒などをおいしそうに召し上がりゆっくりとした正月を過ごされておられました。

まだまだ寒い日が続きますが、皆さんが元気で過ごせることを願っています。

いじめや差別を自分ごとに。

## ピンクシャツデーのお知らせ



## YMCA ピンクシャツデー

2023年 2月 22日 (水)

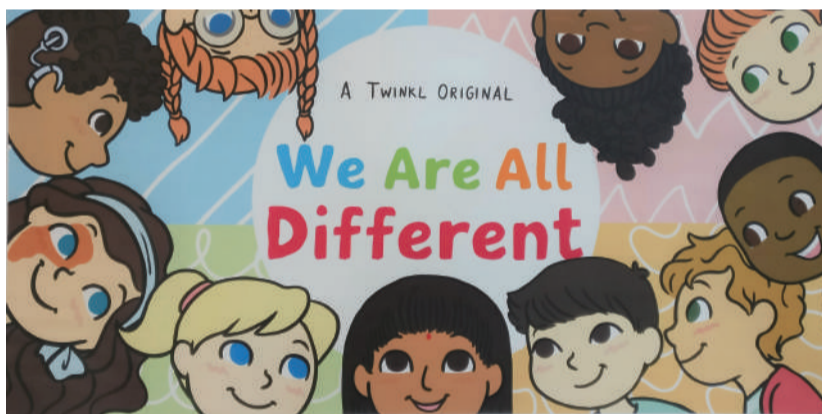
社会全体がいじめに対して「自分ごと」として向き合うこと、  
そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、  
傷つけ合うことのない平和な社会につながっていく...と私たちは考えます。  
一人ひとりが勇気をもって、「自分ではない誰かのために」、そして自分たちのために行動しませんか。  
YMCAはそのようなポジティブで前向きな「よくなる」の連鎖を大切にします。



2007年2月、ピンクのシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では、呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなりました——。このエピソードはSNS等で70カ国以上に広まっていき、カナダでこの出来事があった2月の最終水曜日は「ピンクシャツデー」とよばれるようになり、いじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日とされています。ぜひみなさんも2月22日(水)にピンクのものを身に付けてこの運動にご協力ください。

“We are all different. We are all friends.”

## 英語クラスでもPink Shirt Day



毎年2月は YMCA English の英語クラスでも授業でピンクシャツデーを紹介しています。講師スタッフで集まってどんな内容にするか話し合いながら準備を進めるのですが、ここ数年続けて使用している教材の一つに“*We Are All Different*”という紙芝居があります。幼児・小学生向けのお話です。このお話には、様々なバックグラウンドを持つ子どもたちが次々に登場します。例えば使う言葉は、“I speak Bengali.(ベンガル語を話します)” “I speak Swahili.(スワヒリ語)” “I use sign language.(手話を使います)” と多様な言語が紹介され、容姿については“*I have light skin.(明るい色の肌です)*” “*I have dark skin.(暗い色の肌です)*” “*I have a birthmark.(生まれつきの痣があります)*” “*I have straight hair.(真っすぐな髪です)*” “*I have curly hair.(くせ毛です)*” など、子どもたちが明るい色彩と可愛いタッチで描かれます。好きな運動を紹介するページには、“*I do ballet.*”と男の子がバレエを踊り、“*I play football.*”と義足の女の子がサッカーを、“*I play basketball.*”と車椅子の男の子がバスケットを楽しみます。家族の紹介も多様で、“*I live with my mum.*”お母さんと暮らしている子もいれば、

“*I live with my grandpa.*”おじいちゃんと暮らしている子もいて、“*I live with my mum and dad.*”の文章には人種の異なるパパとママと暮らす子が描かれ、“*I live with my two dads.*”二人のパパと暮らしている子もいます。

そして最後のページには“*We are all different. We are all friends!*(私たちはみんな違うね、私たちはみんな友だちだね)”のメッセージで綴られています。このお話で何よりも素敵なのは、描かれる子どもたちがみんな笑顔なところ。人と違うところがあってもありのままの自分を大切に思えるように、自分と違うところがある友だちをリスペクト出来るように、紙芝居に耳を傾けてくれる子どもたち一人ひとりに届け!と思いながら今年もお話を読んでみたいと思います。

## サンタdeラン&amp;クリーン2022が開催されました!



2022年12月18日(日)にオリオンスクエアにて、とちぎコミュニティ基金主催の子どもの貧困撃退チャリティーイベント、サンタ de ラン&クリーンが開催されました。このイベントでは、子どもの貧困についてアクションを起こしている県内の団体やボランティアが集まり、実行委員会を組織し、協働してイベントを行い、その収益は県内で活動するとちぎ YMCA を含む 19 の NPO へ届けられます。YMCA からはユースボランティアリーダーと、高校生ボランティアグループつぼみ、ワイズメンズクラブの方々、スタッフが参加いたしました。実行委員会の中でもユースを中心に組織される「若者チーム」では、YMCA に連なる大学生が中心となって8月頃からミーティングを実施し、当日までの広報や企画立案を行わせて頂いたことも貴重な機会になりました。

川口 夏菜子



私は普段トライ東でアルバイトスタッフとして働いていますが、今回はYMCAに関わるユースのひとりとして、私たちのような若者は子どもの貧困を撃退するために何が出来るのかを学びたいという思いで参加をしました。また、若者チームの中でも、高校生や他のユースを引っ張っていく立場として参加させて頂いたのでみんなが気持ちよく活動するためには自発的な問いかけや行動力が重要であるということも学びました。寄付先団体へのインタビュー動画の作成や、4コマ漫画の作成、事前イベントの街頭募金などと、期間中は多くの活動を企画し参加しました。その中で最も嬉しかったことは、街頭募金の様子が放映されたとちぎテレビのニュースを見て、トライ東に来館された利用者の方からご寄付と温かい励ましの言葉を頂いたことでした。そして、このイベントを通して私が感じたことは子どもの貧困をより多くの方に知ってもらうためには「繋がり」が必要であると実感しました。この体験を通して学ぶ中で、個人の力では子どもの貧困を撃退するという目的を達成することはとても難しいものだと感じました。しかし、事前イベント等で多くの方に知って頂き、「繋がり」が出来たことで、当日沢山の方が参加された姿を見て、とても意義がある活動だったと感じ、参加して良かったと感じました。

実行委員 眞関 秀明 (ませっきーリーダー)

【御礼】Amazon みんなでサンタクロース



Amazonによる社会貢献活動の一つである「みんなで応援」プログラム『Amazon みんなでサンタクロース』が、昨年11月よりスタートし、沢山のプレゼントがYMCAに届きました!

頂いたプレゼントは、子どもに関わる拠点に配布され、子どもたちの豊かな体験のために使われます。とちぎYMCAを含む全国23YMCAにおいてこのAmazonのキャンペーンに参画しています。多くの子どもたちが室内、野外で十分に体を動かしたり、豊かな学びのときを持ったり、仲間とのかけがえのない時間を過ごすことができるよう、引き続きご協力ください。皆様のご理解・ご支援を賜りどうもありがとうございます。



ウィンタープログラム ありがとうございます



12月下旬より始まった、ウィンタープログラムが1月7・8日のキャンプをもって大きなケガもなく無事終了しました。2022年はコロナの影響によってプログラムの短縮や中止などの変更がありましたが今年のウィンタープログラムは予定通りに実施することができました。総勢130名が参加し、それぞれのプログラム体験が体と心を揺れ動かし成長する場面が数多くみられました。

YMCAのプログラムにはCaring(やさしくする)、Honesty(しょうじになる)、Respect(人を大切におもう)、Responsibility(できることは自分からする)というYMCAで大切にしている4つの価値が込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。

また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。



compass of your heart

とちぎYMCA 大会のご案内



今年も行います!とちぎYMCA大会!!

とちぎYMCA大会とは、とちぎYMCAに関わる全ての皆さまや、これから関わるであろうあらゆる方々と一緒に、YMCAの働きを通して未来に期待していくための大会です。

今回のテーマは「compass of your heart」。とちぎYMCAのスタッフから「こんなとちぎYMCAにしていきたい!」「こんな地域にしていきたい!」という、いわばスタッフの夢を語り、聴講者の皆さまをはじめ、沢山の方々からご意見を頂くことでこの一つ一つの夢を正夢へと近づけていきます。

当日は私たちが持つノウハウを用いながら、この大会を展開し、「みつける。つながる。よくなっていく。」を実感していただきます。

ぜひ皆様と一緒に会って、未来への夢を語りたくと思っています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

詳細はホームページをご確認ください。

日時: 2023年3月5日(日) 13:00~16:00

場所: 宇都宮市青少年活動センター(トライ東) 体育館 (〒321-0962 宇都宮市今泉町3007)

参加費: 無料



月刊#(ハッシュタグ)



とちぎYMCA総主宰 塩澤 達俊

第21回 #なにそれなにそれ #春の祭典#プログレッシブ・ロック #変拍子#不協和音#コンバット!

豆まきの節分が過ぎていよいよ「春」到来です! ですが「ともかく夏が好き!」の私にとって「春」は自然も学校も世の中も、たぶん自律神経も何かと落ち着かない、ちょっとアレな季節です。

私にとって、このアレな気分を「春もなかなか良い季節かも」にアレンジしてくれるのが、ロシアの作曲家イーゴリ・ストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典(1913年)』です。20世紀の近代音楽の傑作とされる作品で複雑な変拍子リズム、不快な不協和音がいっぱい、初演当時の新聞に「春の"災"典(フランス語で)」という見出しまで躍ったカゲキな問題曲でした。

何しろ「輪になって座った長老女たちが死ぬまで踊る若い娘を見守る異教の儀式」がモチーフのバレエ音楽ですから、不可思議で原始的なエネルギーとSFチックな不可解さに満ちあふれ、ひとことではなんとも不気味で、怖くて、子どもなら泣きだしてしまうほどののです。

それでも、どこかプログレッシブ・ロックのようなストイックなカッコよさ(その変拍子さ加減に作曲者のストラヴィンスキー自身が指揮出来なかったとか、あの指揮者カラヤンが現代曲を得意とした岩城宏之に「どのようにこの変拍子を振ればいいのか?」と相談したほど)と、アメリカABCテレビシリーズ『コンバット!』の挿入曲のように(ヤバイ!サンダース軍曹がドイツ軍に見つかってしまう!という場面さながら)緊張感ドキドキの映像も浮かぶスリルなカッコよさがあります。

根っから「春」が好き!という方には不要でしょうが、私のように「早く葉桜になって夏にならないかなー」と願う者にとってちょっとアレな季節に、その気分をカッコいいものに何とかしてくれる処方箋(私の場合は『春の祭典』もそのひとつ)が必要なのです。ぜひ、あなたのユニークな春の処方箋も教えてください。



日本宝くじ協会よりテントを頂きました!

とちぎYMCAに一般財団法人日本宝くじ協会より「集会用テント」を4点及び「宿泊テント」を1点、ご寄贈いただきました。ご寄贈頂いたテントは、認定子ども園さくらんぼ幼稚園の運動会やサッカーフェスティバル、第15回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーランなどで本部テントや熱中症予防の日差し避けとして活用させていただいております。感謝を持ってご報告させていただきます。

